

運動会のご観覧有難うございました！

プロ野球の試合後のヒーローインタビューで「観客の皆さんの声援が力になりました」と選手が答えているシーンをよく目にします。10月5日（土）に令和6年度運動会を無事に終えることができました。今年は台風や秋雨前線の影響で運動会の前後が雨の予報が出されていて、「運動会、いつできるのだろうか」とあらゆる天気予報のサイトを何度も何度もチェックしていました。予想より少し雨が早くあがり、早朝より職員総出で運動場の水取り、ライン引き、テント張りなどを行い、8時過ぎに準備が完了しました。当日は朝、少し曇っていましたが、最後まで雨の心配をすることなく、午後には日差しも出てくるなど運動会を行うにはちょうどよい天気となりました。年々気温が高くなり、かつてのような1日中全学年の児童を運動場で演技や見学をさせることは非常に困難となってきており、今年も1年・6年、2年・5年、3年・4年の2学年ごとに3部制の運動会とさせていただきました。どの学年も徒競走も表現運動も生き生きとしながら、一生懸命に取り組んでいる姿がとても印象的でした。駐車場や観覧席などご不自由もたくさんあったことと思いますが、ご協力をいただき、スムーズに進行することができました。ご来校、ご観覧いただき、誠に有難うございました。（本校ホームページの10月5日のところを閲覧してください。）



ふと見た景色より

休みの日に自宅近くで小さな子が楽しそうにして走っていて、転んでしまうところを偶然見かけました。その子は痛かったのとびっくりしたのとで泣き出してしまいました。近くにいた母親はすぐに駆け寄って行って「いたかったね～いたかったね～」と声をかけていました。「甘やかしてはいけない」とか「自分で立ち上がらせなければ…」という考え方もあるかもしれませんが、しかしながら、子どもが小さければまずは温かいまなざしと言葉がけが何より痛かったり、悲しかったりする子どもの気持ちを和らげるのではないのでしょうか。心理学で“コンテインメント”という言葉があります。“包み込み”という風に訳され、心理学以外でもこの言葉は多く使われています。

先の話に戻すと、コンテインメントとは、自分ではどうすることもできない痛みや悲しみを誰かが自分で許容できるレベルまで包み込んで和らげてくれるというものです。人生においてこの和らげてくれる存在があるかないとでは大きく違ってくると言われていています。今回の場合は包み込んだのは母親ですが、決して母親でなければならない訳ではありません。父親であっても、教師であっても、兄弟や祖父母であってもいいと思います。思春期にあっては友だちという存在かもしれません。小学校の子どもたちも将来成長の中で嫌な思いをしたり、挫折をしたり…ということはあるかもしれません。その時にその子を包み込んでくれる人がまわりにいてほしい、そう願っています。そして、私たち大人は子どもの痛みを包み込んでいける存在でありたいと思います。